

優秀賞

スマホ中毒からの脱出

慶應義塾普通部2年 野坂 涼馬

中学一年生の二学期から三学期にかけて、成績がガクンと落ちた。この理由は、スマートフォンにあった。

僕は、小学校六年生の時にスマホを買ってもらった。この時は制限がかかっていたのでスマホは最低限しかいじらなかつた。しかし、冬休みの旅行の際に制限を解除してもらうと、あるゲームにハマってしまい、やめることができなくなつた。このゲームは、やればやる程数値が上がリ、友達と競い合う、いわゆるオンラインゲームであつた。このゲームを期末試験前日に沢山やつてしまい、テストで点数を取れなかつたということである。

母にとっても怒られ、

「お母さんが子供の頃はそんなゲームなかつたから、ちゃんと真面目に勉強していたのにな。」
と言われ、スマホも没収された。

近年、スマホは若者の中では必需品となっている。遊びの約束をしたり、分からない問題を教えてもらつたりなど、使い方は様々である。だから、冬休みの間スマホを没収されるのは非常に困る訳である。

そこで僕は、一生懸命勉強して返してもらおうと頑張つた。すると、前の制限がかかつた状態で返してもらうことに成功した。この状態では、ゲームはできないが、連絡を取り合うという必要最低限のことはできるので十分であつた。

中学二年生の一学期、テスト一カ月前から勉強に励み、とても良い成績をとることができた。努力したことが実り、ゲームで勝つたときの何百倍もの幸せを感じた。

テストが終わり、制限を解除しようとした母を僕は止めた。まだ自分で自分を律することができないからである。やはり、ゲームはガンであり、楽しみも少しである。そんな無駄な時間を過ごすより、自分の夢へ向かつて日々精進することが大切だと考えたからである。ゲームなしの生活を目一杯楽しみたい。